

最近消滅した名古屋の絶滅危惧植物

村松 正雄⁽¹⁾⁽²⁾

- ⁽¹⁾ 名古屋市立大学大学院システム自然科学研究科生物多様性研究センター 〒467-8501 愛知県名古屋市瑞穂区瑞穂町の畑1
⁽²⁾ 愛知植物の会

Endangered plant species possibly disappeared from Nagoya City, Aichi Prefecture.

Masao MURAMATSU⁽¹⁾⁽²⁾

- ⁽¹⁾ Research Center for Biological Diversity, Graduate School of Natural Sciences, Nagoya City University, 1 Yamanohata, Mizuho-cho, Mizuho-ku, Nagoya, Aichi 467-8501, Japan.
⁽²⁾ Aichi Shokubutsu No Kai

Correspondence:

Masao MURAMATSU E-mail: usubasikesida@yahoo.co.jp

要旨

名古屋市内全域で、名古屋市動植物実態調査に係る専門家委員として、絶滅危惧植物を調査対象の中心に置き、維管束植物全ての調査を行ってきた。まだ調査は始まったばかりであるが、極めて危機的な状況であることが分かってきた。名古屋市内の絶滅危惧植物は、レッドデータブックなごや2015植物によると維管束植物が292種報告されている。そのうち絶滅してしまったものが75種も挙がっている。それとは別に、ここ数年で絶滅したと思われるものが、筆者が確認できただけでも10種以上にもなっている。名古屋市内の絶滅危惧植物が、極めて危機的な状況に追いやられている現状を知っていただくためにここに報告する。

調査の概要

名古屋市内の植物をこの4～5年調査観察をしてきた。愛知県環境審議会専門調査委員として環境保全地域の東谷山の調査もしてきた。そして2018年から筆者は、名古屋市動植物実態調査に係る専門家委員として、絶滅危惧種を中心に調査も進めてきた。

その名古屋市動植物実態調査に係る専門家会合が2019年3月24日に開かれ、2020年の名古屋市レッドリストの改定案の検討が行われた。そこで絶滅(EX)と判定されたものが11種に挙がる。以下のものである。

ジュンサイ (RDBなごや2015で絶滅危惧 I A 類: CR), ダンコウバイ (CR), ウバユリ (CR), ヒメアオガヤツリ (CR), スハマソウ (CR), イヌハギ (CR),

ヒトツバハギ (CR), スズサイコ (CR), コシオガマ (CR), キッコウハグマ (絶滅危惧 II 類: VU), コモチシダ (絶滅危惧 I B 類: EN).

しかし、その後、筆者の調査で絶滅しただろうと判断されたものに、さらに次の7種が挙げられる。

ヒメミソハギ (CR), ビロードスゲ (VU), ヤマネコヤナギ (EN), オカタツナミソウ (EN), ムヨウラン (EN), スルガテンナンショウ (CR), コクサギ (EN) である。

絶滅したと思われる植物の概要

前項で挙げた名古屋市内からここ数年で絶滅したと思われる種の内、筆者が確認できたものだけを挙げておく

と、スハマソウ、キッコウハグマ、ウバユリ、スズサイコ、コモチシダ、ジュンサイ、ビロードスゲ、ヤマネコヤナギ、スルガテンナンショウ、ムヨウラン、ヒメミソハギ、オカツナミソウ、コクサギの13種がある。まだ、他にもありそうだが、あくまでも、筆者が確認できたものだけに絞って、次項で説明することにする。

絶滅の原因は、様々な要因が考えられるが特定は難しく、次の各種の説明でその原因にふれておきたい。

各種の説明

1. スハマソウ（キンポウゲ科）

Hepatica nobilis var. *japonica* f. *variegata* (Makino)
Nakai

(RDBなごや2015：CR，2020：EX)

守山区の丘陵地の谷筋に大きな群落があったが、2018年3月調査に行くとネザサ等にすっかり覆われて消滅してしまっていた。

名古屋市の植物など見向きもしなかった頃、マメナシの調査研究をされていた大岡幸雄氏と知り合ったのは、1998年頃であった。守山区のマメナシを自転車で案内してくれ、私も自転車で後を追った。その折、スハマソウが名古屋にあることを教えてくれ、現地へ案内してくれた。



2009年3月31日撮影

素晴らしい場所が残っていた。何と、自分の家からすぐ近くのところで全く驚かされた。周りはネザサ類が茂っており、大岡先生は毎年ここへ来て鎌でネザサを刈り取っていると教えてくれた。上の写真はネザサが刈り

取られてスハマソウが元気に育っている様子である。その後、大岡先生も体の調子が悪くなり、先生に変わって私が何年かネザサ類を刈り取ってきたが、長いこと続けられず、いつの間にか遠のいてしまった。2018年、名古屋市の絶滅危惧植物調査委員になりシダ植物だけでなく、種子植物全ての調査を始めた。そこで、吉根のスハマソウがどうなっているのか気になったので、花の写真撮りがてら調べに行くと、全く見られなくなっていた。もう手遅れであろうが、念のために少しばかり周りのネザサ類や小木類を鎌で切っておいた。2018年3月のことである。



2019年5月21日現在の様子

翌年の5月にも再度写真を撮りに行ってみたがやはり駄目だった。ネザサやマダケ、ヒサカキ、アカメガシワなどの低木類に覆われ、被陰されて消滅してしまっていた。人間の自然破壊による絶滅もさることながら、自然の遷移による絶滅も驚異的ある。

2. キッコウハグマ（キク科）

Ainstiaea apiculata Sch.Bip.

(RDBなごや2015：VU，2020：EX)

守山区吉根で2009年5月1日に名古屋市の絶滅危惧植物調査委員の鳥居ちゑ子さんが標本を採られている。その場所を教えてもらい何度も探し回るが見つけることができなかった。そうこうしているうちに下の写真のようであったと思われる丘陵地が削られてしまっていた。



2016年11月28日

ここは2019年現在、宅地造成され、すぐにでも家が建つ状態になっている。守山区は最近10年ほどのうちに宅地開発でほとんどの丘陵地がなくなってしまった。ここが最後の砦であったが、ついにここもなくなってしまった。行政もしっかりと自然を残すことを考えなければいけないと痛感するところである。大変残念である。

3. ウバユリ（ユリ科）

Cardiocrinum cordatum (Tunb.) Makino

(RDBなごや2015：CR, 2020：EX)

天白区牧野ヶ池緑地で2001年に、名古屋市の絶滅危惧植物調査委員の渡辺幸子氏によって標本が採られている。1株だけであったようである。RDBなごや2015には最近見られなくなっらしいと記されている。その後の様子を知りたくて、2017年9月19日に渡辺氏を含む名古屋の植物調査委員とともに現地を案内してもらった。しかし、まったくその姿を見ることはできなかった。もともと山地性のもので、冷涼で湿度が高いところに自生するものなので、温暖化と乾燥化が進み絶えてしまったと考えられる。

4. ビロードスゲ（カヤツリグサ科）

Carex miyabei Franch.

(RDBなごや2015：VU, 2020：VU)

RDBなごや2015に、筆者が1995年に守山区吉根庄内川沿いで採集した標本が記載されている。現在の様子を知りたくて2019年5月17, 29日と調査に行くが、ノイバラ、オギ、アカメガシワ、クズ、ナヨクサフジ、コゴ

メイ、セイタカアワダチソウなどに覆われすっかり様変わりして見られなくなっていた。自然遷移の大きさに驚かされる。

5. ヤマネコヤナギ（ヤナギ科）

Salix caprea L.

(RDBなごや2015：EN, 2020：EN)

2000年ころは愛知県のヤナギ類を調べていたので、名古屋市内も隈なく歩いて調べた。ようやく守山区下志段味の風越池の西端で1株見つけて標本を作り、それがRDB名古屋2015に採用されている。2007年4月8日のことである。が、2014年の春に調査に行くと、カミキリムシが入って枯れていた。天白区平針黒石（1995年）と緑区大高緑地（1999年）にもあったようであるが、宅地開発で消失したと記されている。

6. オカタツナミソウ（シソ科）

Scutellaria brachyspica Nakai et H.Hara

(RDBなごや2015：EN, 2020：EN)

RDB2015に守山区吉根で2013年5月25日に採られた標本が載せられており、以前は大きな群落があり、生育も良好であったが、開発のため生育地の大部分が破壊された。現在では隣接する別の谷に小群落があるだけであると記されている。

その谷に2019年5月21日に調査に行くがモウソウチクやアカメガシワ、ヒサカキなどの雑木に覆われてまったく見られなくなっていた。そことは別に、筆者が見つけてあった小幡緑地公園の竜巻池近くに立派な群生地があったので、そこにも行ってみるが、ここも同様ヒサカキやクスノキなどに覆われて全く暗くなって消滅していた。自然遷移の速さに驚かされる。

7. ムヨウラン（ラン科）

Lecanorchis japonica Blume

(RDBなごや2015：EN, 2020：EN)

守山区上志段味の東谷山の南東斜面の谷筋に昔から少数株の自生が知られていたが、ここ数年様子が分からなくなっていたので2019年5月19日、6月6日と調査に行くが全く見られなくなっていた。

乾燥化や自然遷移が進んだこともあるが、最も大きい

のはイノシシの害と思われる。その様子が下の写真である。



2019年6月6日

そのとき、ようやく見つけた1株が上の写真である。1株しかなかったので標本用に採集するのは控えた。消えてしまうからである。ところが、翌年2019年4月27日に行ってみると、なんとイノシシに引っ掻き回されてなくなっていたのである。



2019年4月27日

8. スルガテンナンショウ (サトイモ科)

Arisaema yamatense (Nakai) Nakai subsp. *sugimotoi* (Nakai) H. Ohashi

Et J. Murata

(RDB なごや2015 : CR, 2020 : CR)

RDB なごや2015には、守山区上志段味東谷山で1996年に採集された標本があることが記されており、個体数は少なく最近ほとんど見ていない。天白区相生山緑地にもごく少数の株が生育していた(2002年)が、ここでも最近見ていない。とも書かれている。そこで気になったので、東谷山へ2018年6月23日に確認に行ってきた。



2018年6月23日

9. スズサイコ (キョウチクトウ科)

Vincetoxicum pycnostelma Kitag.

(RDB なごや2015 : CR, 2020 : EX)

RDB なごや2015には、守山区上志段味野添川沿いで2001年6月28日に採られた標本のリストが挙げられている。そして、野添川堤防に小群落があったが、堤防の改修により消失した。天白区島田天白川の堤防に少数株が生育していた(1997年)が最近確認できないと記されている。



2019年7月16日

ここも気になったので、2016年8月8日に見に行くがやはり見当たらなかった。その後何回も行き、2019年7月9日にも調査してきたがやはり見つからなかった。

ところが、この原稿を書き終えた2019年7月16日に南区の天白川沿いに調査に行き、帰ろうとした矢先にスズサイコの群落が見つかった。およそ30株ほど数えることができた。したがって、消滅種としてここに挙げてきたが、現存を確認できた種である。

10. ヒメミソハギ (ミソハギ科)

Ammannia multiflora Roxb.

(RDBなごや2015: CR, 2020: CR)

守山区中志段味の才井戸流で筆者が2011年10月2日に採集した標本が、RDBなごや2015年に採用されている。ここは稀にみる豊富な湧水が流れ出る自然豊かな場所であったが、ついに開発の手が入り水田がえぐり取られてしまっていた。そのえぐり取られた水たまり場に、このヒメミソハギの大株が数株あったのだが、すぐに埋め立てられてしまう運命にあった。

もう一か所、小幡米野にあったが、ここも宅地化が進んでいるので、この場所ではすでに絶滅した可能性が高いと記されている。

ここへは何度も足を運んでいるが、最近の様子をと思い2019年7月9日に写真を撮りに行ってきた。その様子が下の写真である。



2019年7月9日 才井戸流

ブルドーザーが大きな音を立てて土砂を掘り起こしており、昔の面影はすっかりなくなっていた。

11. コクサギ (ミカン科)

Orixa japonica Thunb.

(RDBなごや2015: EN, 2020: EN)

RDBなごや2015には、名古屋市植物調査会の渡辺氏の2003年5月26日採集の標本が採用されている。住宅地の一角に竹林が残っており、そこに何株も小木が自生していたようだ。

ところが、2017年10月14日に、渡辺氏に案内してもらい、一帯を調査したが見つからなかった。数日後、渡辺氏からあったであろう場所の写真をいただいた。それが下の写真である。



2017年11月10日 渡辺氏撮影

写真からわかるように、樹林地はすっかりと切り払われて見る影もない。コクサギは、宅地開発により消滅してしまったようである。

12. コモチシダ (シシガシラ科)

Woodwardia orientalis Sw.

(RDBなごや2015: EN: 2020: EX)

守山区竜泉寺で1998年10月31日に、瀬戸市で熱心に植物調査をされていた日比野修氏が採集された標本がRDB名古屋2015に採用されている。

この場所は、大変わかりやすく県道15号線沿いにある。筆者も偶然にもここを通りかかって1995年ごろ自生の様子を確認している。

ところが、2016年の夏に確認に行った時には、すっかり道路が整備されてすっかりなくなっていた。これはメモ書きの記録による。標本を採っておいたと思うが、

見当たらないので日比野氏によるしかない。その後も、そこを通るたびに覗いてみるが復活する兆しは全くない。

13. ジュンサイ（ジュンサイ科）

Brasenia schreberi J.F.Gmel.

（RDBなごや2015：CR，2020：EX）

以前からジュンサイが自然によく茂る池として、よく知られてきた池であるが、2011年の9月に堤体の改修工事が行なわれ、水位が1.5 mも下げられたまま放置されたので、翌2012年には生育を確認できなかった。

埋土種子が残されていたにもかかわらず、2017年に確認に行ったが見られなかった。すでに絶滅したと考えられる。この時には、池一面近く外来種のセイヨウスイレンがはびこっていた。下の写真のごとくである。



2017年10月1日 塚ノ坑池

謝辞

名古屋市内における植物調査あるいは本稿の執筆で様々な御便宜を賜った名古屋市環境局なごや生物多様性センター、芹沢俊介氏（愛知教育大学名誉教授）、熊澤慶伯氏（名古屋市立大学システム自然科学研究科附属生物多様性研究センター長）に御礼申し上げます。

参考文献

- 愛知県自然環境課. 2017. グリーンデータブック2017 維管束植物編. 愛知県自然環境課. 名古屋.
- 海老原淳. 2016. 日本産シダ植物標準図鑑Ⅰ. 学研プラス. 東京.
- 海老原淳. 2017. 日本産シダ植物標準図鑑Ⅱ. 学研プラス. 東京.
- 倉田悟, 中池敏之編. 2005. 日本のシダ植物図鑑1～8. 東京大学出版会. 東京.
- 名古屋市環境局企画部環境活動推進課. 2015. 名古屋市の絶滅のおそれのある野生生物レッドデータブックなごや2015植物編. 名古屋.
- 大橋広好, 門田裕一, 邑田仁, 米倉浩司, 木原浩. 2017. 改訂新版日本の野生植物1～5. 平凡社. 東京.